

令和4年度 我が校の学ぶ力向上策

【市町 目標】

○新しい価値と可能性を追求する大津の教育～多様性を尊重し自立する人～

【学校 目標】

○「皇子山中学校・校区」を愛し、校区の次代を担う生徒の育成

【現状と課題】

- 視点1 主体的・対話的で深い学びの授業を推進し、さらには生徒指導の機能を活かした授業を実践していく必要がある。
- 視点2 教育上特別な配慮を必要とする生徒への適切な指導のために、様々な教育活動でのユニバーサルデザイン化・支持的風土のある学級経営を目指す必要がある。
- 視点3 地域とともにある学校をつくるため、学校・家庭・地域が 共通理解のもと、ひとつになって様々な取り組みを行っていく必要がある。

取組事項および評価指標

※評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

【視点1】学びを実感できる授業づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○皇中スタンダード「考える・聴く・表す」を意識した授業を実践するために、授業研究を推進し、教職員全体の授業力向上に努める。 ○家庭学習の習慣化をめざす。	・アンケート(生徒・保護者・職員)	B	B
	・前年度以上に教職員の授業参観を促す。	A	A
	・家庭学習の成果物をチェックする。	B	B

【視点2】学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○特別支援教育の視点を大切に、授業のユニバーサルデザイン化をめざす。 ○自他を互いに認め合う学級集団の構築をめざす。 ○異年齢集団での活動の充実をめざす。	・アンケート(生徒・保護者・職員)	B	B
	・学期に3回程度、学級会を実施し、自他を認め合う学級集団づくりに努める。	B	A
	・行事の際には、異年齢集団での活動場面を設ける。	A	A

【視点3】子どものために一丸となって取り組む学校づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を活かした、特色ある教育活動を実践する。 ○校区の保育園・幼稚園及び4小学校と連携し、一貫した教育を実践する。	・アンケート(生徒・保護者・職員・地域)	A	A
	・地域のボランティア活動への参加人数を前年度より増やす。	A	A

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

・4月の職員会議において校長が教育目標や学校経営等について伝える機会に、学ぶ力向上推進リーダーが「学ぶ力向上策」について説明するとともに、それぞれの取組事項に対する具体的な内容について協議する。また、取組事項は学校だより等で保護者や地域に発信する。

・全員で取り組む具体的な内容について共通理解し、視点1については研究主任、視点2については学活主任、視点3についてはコミュニティ・スクール担当が中心となって、組織的に実践につなげる。

・定例職員会議では、取組の状況等を共有し、11月～12月の学校評価や、全国学力・学習状況調査等における結果や数値をもとに、改善策について(校内研究部、OJTグループ、教科部会等)でまとめ、12月の職員会議で共有し、後半の取組につなげる。また、それぞれの取組事項に対する中間評価の結果を学校だより等で保護者や地域に発信する。

今年度の取組の成果と課題

視点1においては、積極的授業参観週間を設定し、それぞれの授業を参観する中で、授業改善に取り組んだ。皇中スタンダードにおける実践事例が生徒の資質・能力の育成にどうつながったのか、省察が必要である。

視点2においては、タブレット活用により、特別な支援を要する生徒だけではなく、様々な生徒にとって学びやすい工夫が各教科や学級指導で見られた。孤立化や伝達型の指導にならないよう今後見直していきたい。学級会では様々なテーマで話し合いを行い、自他を認め合う集団づくりを行った。2学期に実施した団パフォーマンスでは、異年齢集団での活動により学校全体のつながりが深まった。

視点3においては、キャリア教育支援会議を立ち上げ、地域・保護者を巻き込んだ体験学習を実践した。また学校運営協議会でも、キャリア教育の実行委員の生徒を交えて「地域と歩む キャリア教育」をテーマに熟議を重ねた。また、小中連絡会、出前授業(教科・SC)、児童向け学校説明会(生徒会)などを通して、小学校との連携を密にした。